



アフリカ各国から集まった研修員
〔写真提供〕:ケニア中等数理教科教育強化プロジェクト

特集:アフリカ特集

アフリカ開発の現状と課題

日本国内で生活していると、アフリカ地域、特にサハラ以南の地域は距離的に遠く離れた存在という感覚があって、どうしても関心が薄れがちです。マスコミによる報道も少ないようです。私の場合は、つい最近まで、アフリカ支援にかかわっておりましたので、いまだに身近な地域に思えます。

今、国連や先進諸国が途上国援助を増やし、特にその多くをアフリカ支援に向けようとしています。わが国が距離的に遠く離れており、経済的にも関係が薄いアフリカ諸国をなぜ支援しなければならないか。理由の第一は、アフリカには貧困、エイズ、感染症、食料不足など、世界の開発問題が集中しており、その撲滅には世界が一致協力する必要があること。次に、紛争、難民問題などアフリカが抱える多くの問題はグローバル化しており、これを放置しておく世界での平和と安定が保たなくなる。さらに、世界有数の経済大国で平和を希求する日本はアフリカ諸国にとって大きな存在で、日本に対して大きな期待をしているからです。

アフリカが現在、どのような問題、課題を抱えているかを列挙しただけでも、現状の厳しさが実感できます。サハラ以南アフリカ諸国は48カ国あり、総人口が6.7億人、GNI(国民総所得)の総合計は2,978億ドルで、日本のGNIの6.6%にすぎません。しかも、このGNIの3分の1が南アフリカ共和国1国によるものであることを考えると、その経済規模がいかに小さいものでしかないことがわかります。アフリカの人口の約半分が1日1USドルの貧困ライン以下で生活しています。また、全世界のHIV/エイズ患者数4,200万人のうち、約70%がアフリカの人たちで、エイズ問題は、労働人口の減少やエイズ孤児を生み出すことで、大きな社会問題となっています。

このほか、食料不足、安全な水の欠如、地域紛争、内戦と難民の発生、中央政府の統治能力・行政能力不足、汚職の横行、教育制度の不備、巨額な対外債務、森林破壊、インフラの不備などなど、貧困を増幅させる多くの要因が複雑に絡み、貧困をさらに悪化させるという悪循環に陥っているのがアフリカの現状です。これらさまざまな問題が凝縮された形の「貧困」が最大の問題であり、「貧困との闘い」が最大の課題です。

JICAは、「貧困」を「人間が人間としての基礎的生活を送るための潜在能力を発揮する機会を剥奪されており、併せて社会や開発プロセスから除外されている状態」と定義しています。日本で暮らしていると、「経済的な豊かさだけで幸福が得られるわけではない」と、つい考えがちです。しかし、極端な貧困状態にある人々は、貧しさのゆえに幼い命を救うことができない、子供たちが学校に行けない、ひいては毎日の食料さえ手に入らないという極限状態の

中で生活しています。そして、貧困がこれらの人々が本来持っている潜在的な能力を生かす機会さえも奪っています。

今、国際社会は、2015年までに貧困の削減をめざす「ミレニアム開発目標(MDGs)」に取り組んでいます。「極度の貧困と飢餓の撲滅」がMDGsの最も重要なターゲットですが、2005年現在、その目標達成への道は相当に険しいものがあります。

JICAは2004年3月に「JICA改革プラン」を発表しました。JICA改革の3本柱のひとつとして、「現場主義」「効果・効率性、迅速性」とともに、「人間の安全保障」の概念の導入を挙げ、「人々を中心に据え、人々に確実に届く援助」を目指して、7つの視点から、コミュニティーレベル、草の根レベルでのアフリカの人々の力を引き出すような支援を行っています。

近年アフリカ諸国は、アフリカの問題はアフリカ自身で解決しようと努力を続けています。2001年にNEPAD(アフリカ開発のための新たなパートナーシップ)というアフリカ自身によるアフリカ再建のビジョンが打ち出され、紛争、HIV/AIDS、国境をまたぐインフラ開発など、一国で解決できない課題に対し、地域全体で対応しようとする動きが活発になってきました。アフリカ支援では、アフリカ諸国自身が、地域の紛争解決、民主化、経済の発展、行財政の改革などの課題に取り組む努力を支援することが重要です。

アフリカの強みは、部族、地縁、血縁をベースとしたコミュニティーの絆です。セネガルのタイバンジャン村では、日本が援助した井戸を長い間、村全体で資金を集めて維持管理し、そのノウハウを周辺の村へ自分たちで広めています。ケニアのシアヤ村では、青年海外協力隊員の指導で稲作農家が長い間共同で積み立てたお金で日本から精米機を購入して、農業収益を向上させました。アフリカ地域には、何かをすることで「貧困」から抜け出したいと願っている人々がたくさん生活しています。JICAはそのような人達の意欲、熱意に少しでもお手伝いができればと考え、今日もアフリカの各地でさまざまな取り組みを続けています。

JICA中国国際センター所長 生井 年緒



JICAの支援で建設された穀物倉庫の前で(チャド)

JICA中国とアフリカ協力

研修員受入れ

JICA 中国では現在、25のグループ型研修を実施しています。その中で8コースがアフリカ向けで、地域別では最も多くなっています。概要は、別表の通りです。分野別で見ると、教育が6コースで、中小企業支援、平和構築関連がそれぞれ1コースずつとなっています。この背景には、貧困に悩み教育など基礎的生活環境の整備が不十分な国を多く抱えるアフリカに対し、平和都市広島に研修の拠点を持つ JICA 中国として、積極的に支援していこうという考えがあります。

JICA 中国では、基礎教育と平和構築を研修員受入事業の2つの重点分野と位置づけています。アフリカ向け研修の内、6コースと一番多い教育分野では、教育行政、理数科教員養成、基礎教育開発などを研修内容としています。加えて、全国でも珍しい仏語圏アフリカ諸国に対しても、平成9年度から研修員を受け入れています。

平和構築分野はこれまで研修コースも少なく、優良研修コースの立ち上げが急務の課題になっていました。昨年度には、ボスニア・ヘルツェゴビナを対象にした国別研修「平和のための教育ネットワーク構築」を立ち上げました。この経験を元に今年度は、アフリカ向け平和構築分野で初の研修コースである「シエラレオネの平和復興のための国際協力セミナー」を実施しました。1991年から約10年間に渡って悲惨な内戦を経験したシエラレオネの政府高官を、2週間あまり広島などに招いて研修を行いました。

17年度アフリカ向けグループ型研修コース

コース名	受入国・人数	受入期間	実施機関
「中等科学教育実技」	ガーナなど 6カ国 6人	2005. 8. 9-10. 2	広島大学大学院 教育学研究科
仏語圏アフリカ 「教育行政」	ベナンなど 8カ国 10人	2005. 8.23-10. 2	広島大学高等教育 研究開発センター、 広島県立教育センター
南アフリカ共和国 「地方教育行政」	南アフリカ共和国 10人	2005. 9. 6-10. 9	広島大学教育開発 国際協力研究センター
南アフリカ共和国 「理数科教員養成者研修」	南アフリカ共和国 9人	2005.11. 1-12.11	広島大学教育開発 国際協力研究センター、 鳴門教育大学
アフリカ地域 「研究と対話による自立的な 基礎教育開発の促進」	エチオピアなど 4カ国 12人	2006. 2.14- 3.17	広島大学教育開発 国際協力研究センター
ケニア 「INSET運営管理」	ケニア 12人	2006. 2.21- 3.26	広島大学大学院 国際協力研究科、 広島県立教育センター
南部アフリカ地域 「中小企業育成」	タンザニアなど 9カ国 12人	2006. 1.10- 3.19	広島県商工労働部
シエラレオネ 「平和復興のための 国際協力セミナー」	シエラレオネ 9人	2006.10.16-11. 2	(財)ひろしま国際 センター



広島市内の平和記念公園で献花するシエラレオネ国の研修員

青年招へい

JICA 中国の行う青年招へい事業の中で唯一アフリカからのグループを受け入れるのが、「津山と世界を結ぶ会」。同会は、1995年からアフリカ青年の受け入れをはじめ、今年のアフリカ英語圏(公衆衛生)で9回目、総計200名を受け入れた。岡山県の地方都市である津山ならではの、地方の保健医療や公衆衛生の取り組みが日程に盛り込まれるなど、交流だけでなく研修面でもアフリカ青年たちの満足度の高い受け入れとなっている。日本の地方発の国際交流・協力として、アフリカ青年との触れ合いは津山市民の心の中にしっかりと定着している。



「コンニチハ、私はマラウイから来ました。ドウゾヨロシク」

ボランティア事業

アフリカにはこれまで延べ8,500名以上のJICA ボランティアが派遣され、現在でも842名が派遣中。中国5県からは、536名の方が派遣されており、現在も42名が活躍中です。

これまでのアフリカへの派遣累計では、「理数科教師」が最も多く、ついで「コンピューター技術」、「野菜」となっています。現在は、「村落開発普及員」の隊員が増えています。また、JICAの協力理念のひとつである「人間の安全保障」の観点から、『草の根レベルのアプローチ』として、昨年度から派遣が始まった「エイズ対策」や「感染症対策」なども、今後アフリカ協力で期待される職種です。

現在のアフリカへの派遣数トップ3*

2005年11月末現在

順位	中国地方5県		全 国	
	派遣国	職 種	派遣国	職 種
1位	ザンビア&マラウイ 【6】	理数科教師 【10】	マラウイ 【93】	理数科教師 【159】
2位		村落開発普及員 【4】	タンザニア 【90】	村落開発普及員 【90】
3位	セネガル&ケニア 【4】	コンピューター技術 【3】	ガーナ 【88】	コンピューター技術 【52】

【 】内は派遣数

草の根技術協力

JICA 中国は、アフリカで以下の2件の協力事業を行っています。「南アフリカ共和国・フリーステート州ツェツェン村農業開発支援事業」は、岡山県内の特定非営利活動法人ピーエルエルが、村民の経済的自立のための農業経営の改善に協力するものです。もう一つは、(特活)アムダによる「ザンビア国・ルサカ市非計画居住地区結核対策プロジェクト」です。中国地方のNGOの皆さんも、執務・生活環境が苛酷なアフリカの現場で、活き活きと活動されています。



プロジェクトスタッフと対象農民

あなたの街のJICA国際協力推進員

JICA国際協力推進員とは?

私たちは、JICAと地域の連携強化を図るために、JICAデスクとして各都道府県国際化協会へ配置され、地域の特色を活かした国際協力に取り組んでいます。地方自治体、NGO、教育関係、そして地域の人々が、JICAと一緒に国際協力を進めるためのパイプ役です。

「JICAって、どんなことをしてるの?」「青年海外協力隊に参加したい!」「開発途上国について、知りたい!」「開発教育ってなに?」などなど、皆さんの疑問・質問にお答えします。

国際協力に興味のある人、情報収集をしている人、実際にチャレンジしたい人、すでにがんばっている人、お気軽に私たちに声をかけてください!

島根県

(財)しまね国際センター
TEL:0852-31-5056
FAX:0852-31-5055
配置先住所:〒690-0826
島根県松江市学園南1-2-1
くにびきメッセ2F
E-mail:jicadpd-desk-shimaneken@jica.go.jp
URL: http://www.sic-info.org/



長富 邦恵
青年海外協力隊OG
派遣国:パングラテン
職 種:家畜飼育

鳥取県

(財)鳥取県国際交流財団
TEL:0857-31-5951
FAX:0857-31-5952
配置先住所:〒680-0947
鳥取県鳥取市湖山町西4-110-5
鳥取空港国際会館1F
E-mail:jicadpd-desk-tottoriken@jica.go.jp
URL: http://www.torisakyu.or.jp/ja/index.html



花岡 潤
青年海外協力隊OB
派遣国:パプア・
ニューギニア
職 種:村務開発普及員

山口県

(財)山口国際交流協会
TEL:083-925-7353
FAX:083-920-4144
配置先住所:〒753-0811
山口県山口市吉敷3185-1
E-mail:jicadpd-desk-yamaguchiken@jica.go.jp
URL: http://www.yiea.or.jp/



鈴木 博子
青年海外協力隊OG
派遣国:セネガル
職 種:野菜栽培

広島市

(財)広島平和文化センター
TEL:082-242-8879
FAX:082-242-7452
配置先住所:〒730-0811
広島市中区中島町1-5
E-mail:jicadesk@pcf.city.hiroshima.jp
URL: http://www.pcf.city.hiroshima.jp/ircd/index.cgi



礪村 祐子
日系社会青年
ボランティアOG
派遣国:ドミニカ共和国
職 種:日系日本語
学校教師

広島県

(財)ひろしま国際センター
TEL:082-541-3777
FAX:082-243-2001
配置先住所:〒730-0037
広島県広島市中区中町8-18
広島クリスタルプラザ6F
E-mail:hic06@hiroshima-ic.or.jp
URL: http://hiint.hiroshima-ic.or.jp/hic/



白 築 健
日系社会青年
ボランティアOB
派遣国:ボリビア
職 種:日系日本語
学校教師

岡山県

(財)岡山県国際交流協会
TEL:086-256-2917
FAX:086-256-2226
配置先住所:〒700-0026
岡山市奉還町2-2-1
E-mail:jicadpd-desk-okayamaken@jica.go.jp
URL: http://www.opief.or.jp/



藤本 裕美
青年海外協力隊OG
派遣国:セネガル
職 種:家政

～ 教師海外研修に参加して～

ケニア



岡山市立操明小学校
原田 緑 先生

この夏、JICA教師海外研修でケニアに派遣された。青年海外協力隊員が活動している現場に行き、ケニアの子どもたち、ケニアの人々に会った。ケニアの自然を守るために活動している協力隊員に、会った。初めてのアフリカは、感動の連続だった。ケニアの大地、空、海、そして人は、今も私の中で輝いている。まさに、この研修のテーマ「ココロとカラダにしみるケニア」だった。

私は、操明小の子どもたちに伝えたいことを、たくさんかかえて帰国した。帰国後も、ケニアの協力隊員は、私と同じ思いで子どもたちにメッセージを伝えてくれた。そして、ケニアと私の小学校をつなぐTV会議が実現した。

岡山では、アフリカとは初のTV会議。様々な人々が応援してくれた。テレビや新聞でも報道された。操明小の子供たちにとって、ケニアは忘れられない国になった。青年海外協力隊の活動に興味をもち、もっと知りたいと思う子ども、地球の自然を守るために、自分は何ができるか考える子どもが増えた。

私のケニア訪問から、ケニアの人々や自然に思いを寄せ、協力隊員の活動を応援する思いが、子どもたちに広がっていった。この思いが、どのように成長していくか楽しみである。私にこのような機会を与えてくださったJICA中国の皆様、感謝している。



モンバサで女の子達と

ガーナ



岡山県立備作高校
村井 容子 先生

教師海外研修でガーナに行ってきました!「ガーナといえば?」「チョコレート!」日本国民のほとんどが、そう答えるでしょう。もちろん、私も、私の生徒も同じ考えを持っていました。ガーナに行くまでは...

今回ガーナ共和国を訪問し、マラリアの原因であるハマダラ蚊との戦いやバケツ一杯の水しか使えないお風呂、整備されていない道路での長時間ドライブなどから開発途上国の現状や問題点を体感することができました。また、設備の整っていない学校での150人一斉授業など、過酷な状況の中で奮闘する青年海外協力隊の方々の姿に、国際協力の在り方を考えさせられました。人見知りすることなくいつも笑顔絶やさないガーナの人々など、チョコレートだけではなく、ガーナの多様な側面を見ることができました。

現地での研修は終わりましたが、私たち参加者の研修は今なお進行中です。自分たちが見聞きし、感じたことを生徒に伝えながら世界に目を向けさせるために、私たちはより分かりやすい授業作りに取り組んでいます。「ガーナのカカオ農園は、環境問題や児童労働などいくつかの問題を抱えています。その問題を知った今、私は大好きなチョコレートを食べることはできません。私が心おきなくチョコレートを食べるために、日本人としてできる国際協力を考えよう。」(授業『チョコレート問題』より)

「ガーナといえば?」「チョコレートだけじゃない!」何気なくチョコレートを口にすると、それが作られるまでの背景とその過程にかかわるガーナの人々の存在を感じられる、日本の高校生が少しでも増えてくれればと願っています。



青年海外協力隊員と苗畑で

各県 国際協力推進員の活動

私たちは、JICAと地域の連携強化を図るために、JICAデスクとして各都道府県国際化協会へ配置され、地域の特色を活かした国際協力に取り組んでいます。

鳥取県

平成17年度「青年海外協力隊帰国報告会」開催

青年海外協力隊の活動を、より多く的一般の方々にも知っていただきたいという想いから、帰国隊員の活動報告に加え、隊員が派遣されている世界各国の料理や様々な民族衣装の試着、さらには隊員活動の様子が分かるパネル展なども交えた現在の「帰国報告会」のかたちになって7年目。今回は、県中部の倉吉市で開催しました。回を重ねるごとに、着実に帰国隊員の方々の熱意が、多くの県民の皆様には伝わっています。今回も、ご挨拶を頂いた藤井喜臣副知事をはじめ、国際交流・国際協力に関わる多くの方々にお集まり頂きました。パネルディスカッションでは、JICA国際協力エッセイコンテストで全国優秀賞を受賞された倉恒万里子さん（倉吉市西中学校3年生）や倉吉在住のハイル・ハラグアさん（エチオピアの方）を交え、日本と外国との文化や習慣の違いで驚いたことや学んだこと、そして「身近なところから出来る国際協力」について、みんなで話し合いました。



民族衣装を着た帰国報告者（グアテマラ・中国）

岡山県

倉敷国際ふれあい広場2005出展（10/9）

今年は、初めてJICAボランティアOVたちが料理屋を出店し、すべて完売するほど盛り上がりました。別の場所に設けたJICAの写真展と相談コーナーでは、多くのシニアの方々が、熱心に質問されていました。

地球市民フェスタinおかやま2005開催（10/29,30）

岡山県、(財)岡山県国際交流協会、岡山県国際団体協議会と、実行委員会形式で開催しました。約30団体が参加し、ブース展示やイベントを2日間行いました。JICAボランティア相談コーナーには常時相談者があり、職種や現職参加などの心配事について、OVたちのカウンセリングを熱心に受けていました。OVによる料理講座もあり、協力隊志望者たちと楽しみながら交流しました。

ケニアと岡山を結ぶテレビ会議開催（11/9）

岡山市立操明小学校で、同校とケニアをテレビ会議でつなぎ、青年海外協力隊員と小学生が直接話をしました。児童たちは、ケニアの環境について熱心に質問したり手を振ったりして、交流をしました。原田教諭が、JICA中国「教師海外研修」に参加し、ケニアを訪問したのをきっかけに実現しました。

スキルアップ勉強会開催（12/3）

(社)青年海外協力協会の土橋泰子さんを講師に、協力隊体験を伝える方法を勉強しました。NGOや教員も交えて、出前講座のテーマや写真を使った授業について、勉強しました。

青年海外協力隊OVによる国際塾講師（12/17）

国際子どもフォーラム岡山が主催する高校生を対象とした国際塾に、青年海外協力隊OVたちが、講師として参加しました。写真を使った現地活動の紹介などを通じて、受講生たちはJICAボランティアに興味を持ったようです。



地球市民フェスタ内 JICA ブース

広島市

「平成17年度シニア国際協力ボランティア養成セミナー」開催

今、シニア世代が選ぶ第2の個性的な生き方が注目を集めています。特に広島市では、国際協力ボランティアへの関心が高くなっています。これを受け、(財)広島平和文化センターではシニア世代を対象に、国際協理解講座、海外研修を内容とするセミナーを実施しています。

これまで4回開かれた国際協理解講座では、自分を見つけるワークショップに始まり、中山修一広島経済大学教授による「国際協力の現状と課題の概要」についての講義、また活動体験談としてJICAシニア海外ボランティアOGの久田芳子さん（ポリビア：保健衛生）、アジアの友と手をつなぐ市民の会代表の渡部朋子さん、日比援助協会理事の鎌倉啓治さんが、それぞれの体験談を発表されました。

今年度の受講者38名のうち、16名の海外研修希望者は、1月22日から1週間、タイ・カンボジアのNGOやJICA現地事業の視察へ向かいます。



熱心に耳を傾ける受講者の皆さん

URL : <http://www.pcf.city.hiroshima.jp/ircd/index.cgi>

島根県

青年海外協力隊帰国報告会

11月22日、県庁で知事表敬訪問および県民会館でJICAボランティア参加者の帰国報告会を開催しました。島根県からはこれまで約230名の方が、JICAボランティアとして各国に派遣され、活躍されました。今回は、帰国間もない青年海外協力隊OG陰山亮子さん（エクアドル派遣）同じく梢紗知子さん（ウズベキスタン派遣）から、帰国報告をして頂きました。2人とも派遣職種は小学校教諭、それぞれの国の事情によって教育制度、文化や考え方の違いで苦労されたこともあったようです。しかし、2人が紹介した学校の子どもの映像からは、どれも素敵な笑顔があふれているのがとても印象的でした。その子ども達に囲まれて映っている姿からは、活動の様子が伝わって来るようでした。また、2人とも衣装や映像を交えながら楽しくお話を下さり、話を聴きに来ていた人達からは、活動の様子を聞いてさらに興味が湧いたという声や、世界にはいろんな国があることを感じたという意見がありました。さらに今回は、これから派遣予定（17年度2次隊）の野津志乃隊員（マラウイ派遣）、渡邊耕二隊員（エクアドル派遣）にも、参加して頂きました。会場にお集まり頂いた皆さんを前に、「活動を無事に終えて今日の報告会のように、自分の活動が皆さんに発表できるように頑張ります」と抱負を語りました。会場からは、温かい拍手を頂き、出発前の隊員達の意欲も高まったのではないのでしょうか。

このように、開発途上国やJICAボランティアについて、身近に感じて頂けるような機会を、今後とも設けていきたいと思っています。皆さんもお楽しみに！



知事表敬訪問の様子：左から楳さん、陰山さん、澄田知事、野津さん、渡邊さん

広島県

カンボジア・スタディーツアー参加者募集中

JICA中国と(財)ひろしま国際センター(HIC)は、本年度も「カンボジア・スタディーツアー」を行います。期間は、2月20日から27日までの8日間。青年海外協力隊やシニア海外ボランティアの活動現場をはじめ、アンコールワット遺跡があるシェムリアップ州で広島県がJICAと進める復興支援プロジェクト「元気な学校プロジェクト」(教育・保健医療)現地NGOなどを積極的に回る予定です。

国際協力に関心がある方、国際ボランティアの現場を見たい方、絶好のチャンスです。定員に限りがありますので、ぜひ早めに申し込みください。詳しくは、HICホームページをご覧ください。

<http://hiint.hiroshima-ic.or.jp/hic/>

国際理解教育セミナー 1月15日と29日に開催

各回40人前後の参加を得ている国際理解教育セミナー(全5回)、本年度は、残すところ1月15日と29日の2回になりました。15日は「国際人道法ってなに? ~人間としての最低限度のルール~」、29日は「グローバルスタディー~持続可能な知識・態度・技能の習得を目指して~」(仮)がテーマです。会場のHIC(広島市中区)で、お待ちしております!



カンボジアのササースダム小学校

山口県

国際理解推進サポーター養成講座

JICA中国と(財)山口県国際交流協会との共催による「国際理解推進サポーター養成講座」を、多文化共生のまちづくりを目標に、開催中。

11月26日の講座では、国際理解・交流活動を市民が主体的にすすめるように、場づくり・コーディネートをしている武蔵野市国際交流協会の杉澤さんを講師として、教員・日本語教師・住民さまざまな立場の市民が参加している事例の紹介をしていただきました。また、夏の講座で体験した「部屋の四隅」「ブレインストーミング」などの国際理解教育の手法を使いながら、「多文化共生」という言葉を共通認識しました。また、言葉や習慣、文化の違いから派生するマイノリティーを持った外国籍住民が、同じまちに住む住民として社会に参加・交流できるようにするには、何が必要なのか?をグループで話し合い、共有しました。初めての参加者と経験者、年輩の方と大学生、全受講者が、この講座のなかでも異文化の存在を体感し、対等な関係の中で対話をすすめるという姿勢を大切にしている場となりました。



「多文化共生」についてブレインストーミング

技術研修の窓

アフリカ教育分野研修と広島大学

JICA中国では、広島大学と連携し、ガーナ、ケニア、南アフリカ共和国など、多くのアフリカ向け教育分野の研修を行っています。今回は、同学に1997年に設立された教育開発国際協力研究センター(CICE)とともに行っている南アフリカ共和国(以下「南ア」国)を対象とした研修を紹介します。

「南ア」国では、生徒の理数科嫌いや低い学力が問題となっており、教員の資質の向上が課題となっています。学校では、多くの授業は板書によるものであり、教材も、それを扱える教員も、十分ではありません。JICAでは、1999年から「南ア」国ムプランガ州(以下「ム」州)の中学と高校の理数科教員の再訓練を支援しています。

この支援の一環として、JICA中国では、広島大学CICEと連携し、「ム」州から毎年9月に教育行政官、11月に理数科の指導主事と教員を受け入れており、その数は100名を超えました。これらの研修では、日本の教育に関する講義を受ける他、広島県内の教育委員会、教育センター、小中高等学校、地元企業などを訪問します。また、広島大学CICE、

各講師や訪問先の教育関係者と多くの意見交換の場を持ちます。研修員は、それらの研修を通して、自国の教育の課題を再整理し、日本、そして広島県の教育経験を学び、行政官、指導主事、教員のそれぞれの役割や視点から、帰国してからの自国の理数科教員研修の改善に活かしています。

JICA中国は、広島大学と今後もより一層連携を深め、研修を通して、アフリカの教育を支援していきます。



南ア理数科教員養成者研修コースでの実習



広げよう! 市民参加の輪

～ IDEC - JOCV 連携プログラム～

JICAでは、青年海外協力隊(JOCV)事業を活用した大学との連携にかかる全国初の試みとして、「IDEC-JOCV連携プログラム(ザンビア国理数科教師グループ派遣)」を実施しています。2002年度から、開始されたこのプログラムは、広島大学大学院国際協力研究科(IDEC)と共に実施しているものです。IDECに在学中の学生が、青年海外協力隊員としてザンビアに行き、現地で教育活動を行うものです。

具体的には、JOCV隊員としてザンビア国に赴き、主として教育分野の発展のための活動を行う、現地でのJOCV活動と平行し、これらの現地活動での成果を修士論文にまとめることで、修士の学位が取得できる、大学指導教員の指導及び集中講義等の活用により、標準として3年6ヶ月での修了が可能です。

本プログラムでは、これまでに8名の学生がザンビア各地で活躍しており、来年度には3名が派遣される予定です。

このプログラムで実際に派遣された大学院生の声

広島大学国際協力研究科院生 谷口 正明

私は、広島大学大学院国際協力研究科に在籍しながら、2002年12月から2005年3月まで、ザンビア共和国に青年海外協力隊の理数科教師として活動しました。従来の院生として参加した場合、その活動期間に休学しなければなりません。しかし私は、2002年からIDECに設けられたこの

特別プログラムによって、活動期間中に単位を取得できるという恩恵を受けることができました。現地では、理数科の教員として教壇に立つとともに、教員研修センターにも配属され、そこを通して調査研究を行いました。帰国後は、修士論文をまとめるだけでなく、自分の大学院修了後の進路のことも考えなくてはなりません。このプログラムで派遣された第一期生3名のうち、私を除く2名は博士課程後期に進学しました(予定含む)。私は、民間企業に内定を頂くことができましたが、それは社会経験がなく、それも帰国後「大学院新卒」として扱われたことが有利に働いたと思います。



ザンビアの生徒達

IDECのHP : <http://home.hiroshima-u.ac.jp/idec/index-j.html>

本プログラムのHP : <http://home.hiroshima-u.ac.jp/intlscim/top.html>

JICA 中国も ISO 14001 認証取得

前号で、「JICA 中国によるISO 14001(環境管理システム)への取り組み」をご紹介しました。JICA 中国が、新たに認証取得されました。これを起点として、JICA 中国は、地球環境保全に一層配慮した業務を推進していきます。



ネットワークとを活用して、開発途上国への援助をより一層、効率的・効果的に推進することができます。一方、広島大学としても、現場に密着した研究フィールドを拡充できる、国際協力の現場を教育の場として活用できるなどのメリットがあります。今後、この協定によって、JICAの事業戦略と広島大学の「国際化戦略」とを一層効果的に繋げることができます。そして、具体的な連携事業を進め、開発途上国の人々が自国の抱える課題を自らの力で解決していけるよう、双方が力を合わせて、支援していきます。



広島大学牟田泰三学長とJICA緒方貞子理事長

広島大学と包括連携協力協定を締結

12月14日に広島大学において、緒方貞子JICA理事長と牟田泰三広島大学学長の間で締結・署名されました。署名式には、テレビ5社(NHK、中国放送、テレビ新広島、広島ホームテレビ、東広島ケーブルメディア)と新聞3社(中国新聞、読売新聞、プレスネット)が取材し、JICAと広島大学との連携に高い関心と期待が寄せられました。

JICAは、広島大学の豊富な人材リソース・知見と

新聞記者をアフリカ4カ国に派遣

JICA中国では、毎年、地方マスコミ記者を開発途上国に派遣しています。今年度は、1月に山陰中央新報の井上記者がウガンダとケニア、3月に山陽新聞の藤岡記者がマラウイとザンビアで国際協力の現場を取材する予定です。取材報告を、お楽しみに！

「ピーストックマラソン」in 島根、鳥取、山口

ピーストックマラソンは、JICAと全国地方新聞社連合会との主催で、「一人一人にできること」をテーマに、2003年8月から2007年3月までの3年半をかけて、47都道府県を一巡するリレーシボジウムです。中国5県では、2004年10月に岡山市で、2005年7月に広島市で開催しました。残る3県での開催予定は以下のとおりです。各県の特徴を活かした開催を計画しますので、ご協力をお願いします。

3/11(土)島根県松江市(くにびきメッセ、山陰中央新報社との共催) 6/24(土)鳥取市(さざんか会館、新日本海新聞社との共催) 12月山口県(山口新聞社との共催)

開発途上国で活躍中の中国5県JICA ボランティア・専門家 (2005年12月現在)



県名	専門家	青年海外協力隊	シニア海外ボランティア	日系社会青年ボランティア	日系社会シニアボランティア	合計
鳥取県	5	10	1	0	0	16
島根県	8	14	1	2	0	25
岡山県	17	33	10	2	1	63
広島県	17	53	5	1	0	76
山口県	5	27	6	0	0	38
合計	52	137	23	5	1	218

中国5県JICA 派遣専門家連絡会

連絡会名	氏名	役職	派遣国・指導科目	E-mail
鳥取県JICA派遣専門家連絡会	藤山 英保	副会長	メキシコ・土壌肥料	fujiyama@muses.tottori-u.ac.jp
島根県JICA派遣専門家連絡会	増永 二之	事務局長	ニジェール・土壌肥料	masunaga@life.shimane-u.ac.jp
岡山県JICA派遣専門家連絡会	山北 勝寛	幹事	ブラジル・社会福祉	yamakita@kiui.ac.jp
広島県JICA派遣専門家連絡会	坂田 泰和	臨時会長	フィリピン・寄生虫	ysakata@hiroshima-u.ac.jp
山口県JICA派遣専門家連絡会	深田 三夫	事務局長	タイ・土壌侵食	mfkada@yamaguchi-u.ac.jp

【訃報】 島根県JICA派遣専門家連絡会の寺田俊郎会長(鳥取大学名誉教授)が、昨年12月23日にご逝去されました。生前の当機構へのご協力・ご支援に感謝申し上げますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

【訂正】 9号にて記載致しました島根県青年海外協力協会の尾野明彦会長のE-mailアドレスは現在使用されておりませんでした。この場をかりてお詫び申し上げます。

お問い合わせ

独立行政法人国際協力機構 中国国際センター (JICA中国)

〒739-0046 広島県東広島市鏡山 3-3-1 ひろしま国際プラザ内(総務チーム)

TEL: 082-421-6300 FAX: 082-420-8082

E-mail: jicacic@jica.go.jp

URL: <http://www.jica.go.jp/branch/cic/index.html>

